

●発行者 稲門建築会会長・村松映一

●編集者 稲門建築会広報委員会（委員長・宮川浩）

●発行所 稲門建築会

〒169・8555 東京都新宿区大久保3・4・1

早稲田大学理工学術院55・S・02・01

電話・ファックス 03・3208・0640

ホームページ 11 http://www.all-waseda.com/rikogakai/tounon/arch/

電子メール 11 tounonji@poppyoon.ne.jp

制作 11 都市建築編集研究所

DESIGN: KAKEI GRAPHICS

◎稲門建築会

●巻頭言 サステイナブルな都市環境・都市経営をめざして……邑上守正

●友 内井昭蔵……遠藤勸勝

●特集 建築の現場「東京スカイツリーにかかわる仕事」

……インタビュ／今村義人・亀井忠夫・吉野繁・川瀬俊二

●建築学科創設100周年記念事業本格始動——記念コンペを実施!!

●2010年度「春の大会」報告

……篠田正浩氏特別講演会・第13回稲門建築会特別功労賞受賞者紹介

巻頭言

サステイナブルな都市環境・都市経営をめざして

邑上守正（武蔵野市長／苗S56）

市長に就任して5年目。市民が主役の市政運営を目指し、様々な課題解決に向け日々奔走しています。地域主権の確立が期待される中、自治体としてはそれを待ち受けるのではなく、自ら自治のあり方を追求して地域主権を勝ち取っていく、気概ある地方政治を進める必要があると意気込んでいます。

さて、武蔵野市は市域面積がたいへん狭く人口密度が高いものの、利便性に富んだ都市として、また「武蔵野」「吉祥寺」といったイメージにも支えられ、住みたいまちとして評価されています。従来からコンパクトシティの条件を兼ね備えており、その特性を最大限活用した、実際に住み続けられるまちとしての都市形成が重要と考えています。

建築学科創設100周年記念事業
いよいよ本格始動!

2010年9月、早稲田大学建築学科は本科が創設されて100周年を迎えます。

稲門建築会では、「早稲田建築100年の歴史を次の100年に」を合言葉に、学校と共に多くの記念事業を企画しています。「早稲田建築合同クラス会2010」を始め、100周年記念設計コンペなど、総務、会員、事業、広報各委員会での様々な企画のほか、稲門建築会全体の記念事業として、「100周年記念冊子」の発行と「早稲田大学／稲門建築会・ヒストリー／オーラル・アーカイブ」実現を2本の大きな柱としています。

去る5月28日に開催された稲門建築会総会にて、発起人代表および500名を超える発起人の方々のバックアップのもと、いよいよ本格的な100周年記念事業および事業寄金募集活動がスタートいたしました。

100周年記念事業推進委員会では、記念事業推進のため4つの部会を立ち上げ、委員の皆さまが精力的に活動をしています。「企画および選定ガイドライン規則」の作成を行ない、アーカイブに取り上げる方々をリストアップする企画部会、ヒストリー／オーラル・アーカイブを制作管理する実行部会（現在は企画・実行部会を合体して実行委員会として活動中）、稲門建築会すべてのメディアを活用し、記念事業内容を全会員に公開する広報部会、そして代表発起人、発起人を選定し、会員の方々に事業寄金を募るサポート部会です。

「100周年記念冊子」は稲門建築会すべての会員の方々に配布する予定です。また、ヒストリー／オーラル・アーカイブは本年1月27日開催の稲門建築会新年会等にて、オーラル・アーカイブ第1回目デモ版を発表して出席者の好評を得ました。その第1回の「村野藤吾」がいよいよWeb上で公開実施される予定となりました。村野藤吾氏をはじめ本年度は約10名の方々にアーカイブにて皆さまにご紹介する予定です。稲門建築会すべての会員の方々にに対し、100周年記念事業へのご支援、寄金へのご協力をお願いいたします。

地主道夫（100周年記念事業推進委員長／苗S48）

◎提出・審査 2010年11月（理工展にて）

◎審査員（予定）

トム・ヘネガン（東京芸大教授）

入江正之（早大教授）

古市徹雄（千葉工大教授）

隈研吾（東大教授）

塚本由晴（東工大教授）

新谷眞人（早大教授）

高口洋人（早大教授）

建築学科創設100周年記念事業の一環として、事業委員会企画の記念コンペを実施します。

100周年記念を広く知らしめるという趣旨からも、応募参加者は国内外の学生などに門戸を開き、オープンコンペとします。

世界的にも知られた豪華な審査員による、11月理工展での公開審査を予定しています。

ぜひ、多数の参加を期待します。

◎コンペタイトル

友
内井昭蔵

世田谷美術館で開催された展覧会「内井昭蔵の思想と建築」を観た。公園の緑に囲まれた世田谷美術館には窓が多く、城や邸宅を改修したヨーロッパの美術館のような空間の楽しさがある。普段、その窓は閉じていることが多いが、今回の展覧会ではほとんどすべての窓を開けて、机上に作品を展示していた。内井昭蔵さんの遺志をくみ取った展示空間だった。並べられた図面やスケッチを観て、思わず感慨にふけった。内井さんの建築には、10年近く勤めた菊竹清訓建築設計事務所での経験が大切だったのだと感じた。菊竹事務所時代のことを思い出さずにはいられなかった。

僕が内井さんと出会ったのは、「スカイハウス」がまだ工事中だった昭和32（1957）年の暮れだった。当時、大学院生だった内井さんを、菊竹さんは三顧の礼で事務所を迎えた。内井さんは「成増厚生病院」や「浅川テラスハウス」、東急田園都市線の都市計画「ベアシティ」などを担当した。

内井さんは設計するだけでなく、菊竹さんとディスカッションをする大切な存在でもあった。菊竹さん



「内井昭蔵の思想と建築 自然の秩序を建築に」展覧会カタログ。展覧会は世田谷美術館で2009年12月12日から2010年2月28日まで開催された

は内井さんと話をしながら方法論を考えていた。内井さんは育ちが良く、とにかく穏やかで優しい人だった。アメリカ大統領のケネディに似ているといわれていて、みんなに人気があった。内井さんと僕は仲が良かったので、よく一緒に銀座の喫茶店に行ったり、スケッチを描いたりディテールやデザインの話をしていた。また、内井さんはとてもグルメだったので、洋食のおいしいお店によく連れて行ってもらった。僕は設計と同時に食文化も内井さんに教えてもらった。

事務所では、内井さんは近代建築をつくるのが苦手なのではないかと僕は感じていた。プランはめっぽう上手だったが、近代建築の立体がなかなか建ち上がらない。当時、近代建築の設計では、なるべく壁厚を薄く、柱を細くしていた。僕は1/100のプランを描くとき、コンクリートの壁を1mm以下の線であるべく細く描いていた。しかし、内井さんは3mmや5mmの太さの線で壁を描くのである。「内井さん、この図面は1/100なんだから太すぎるんじゃないの？」と僕がいつても、内井さんは「わかっている」とだけ言って直さなかった。僕にははばらくその理由がわからなかった。

それがわかったのは、ニコライ堂で行われた内井さんの結婚式に行ったときだった。内井さんがニコライ堂で生まれ、幼少期を過ごしたことを知った。こんな環境で育った内井さんの建築が近代建築にならないのは当然だと思った。その結婚式には今和次郎先生や今井兼次先生など、そうそうたる方々が出席していた。内井さんは早稲田の先生方にすごくかわいがられているのをよく覚えている。

当時のことを回想していて、ハッと気付いた。菊竹事務所時代、内井さんはほとんど現場に行かなかった。内井さんは最初のプランを描いて、後はほかの人に任せて、すぐ次の設計に取りかかっていた。だから、内井さんが担当した建築の現場には僕が代わりに行っていた。今考えると、そのときの現場の経験が僕を育ててくれた。それがきっかけで、僕は設計や現場が大切だと思うようになったのである。内井さんのおかげで今の僕があるのだとつくづく実感した。（談）

聞き手・宮川浩（広報委員長／苗S56・院S58）



ニコライ堂で行われた内井昭蔵氏の結婚式。今和次郎夫妻が立会人を務めた（撮影：遠藤勸勝）

「建築の現場」

東京スカイツリー®にかかわる仕事

日本を代表する新しいシンボルとして話題の東京スカイツリー。東京都墨田区押上に建設中の電波塔だ。完成すれば、自立式電波塔として世界一の高さ（634m）となる。日本中の注目を集めるタワーを建設する現場には、どんな人がかわり、どのような仕事をしているのだろうか？

東京スカイツリーの建設には、設計者、施工者、建築主のそれぞれに頼み出しかかっている。そこで、設計者である日建設計でタワーの設計統括を担当する亀井忠夫氏（デザイン）を、施工者である大林組で技術営業やPR活動を担当する川瀬俊二氏に、学生時代のことやタワーにかかわるまでの経緯、仕事内容などについて話を聞いた。また、学生広報委員が建設現場に行き、建築主である東武タワースカイツリーで広報担当の今村義人氏にインタビューを行った。

●広報委員会：宮川浩（苗S56・院S58／インタビュアー）・石堂威（苗S39／オブザーバー）・石黒唯嗣（芽H14／撮影）・大塚健史（苗H14・院H17／構成・撮影）・上田真路（苗H17・院H19／インタビュアー）

建築主／東武タワースカイツリー 設計／日建設計 建築デザイン
 広報／今村義人氏 …… 亀井忠夫氏（苗S52・院S56）
 …… 吉野繁氏（苗S59・院S61）
 施工／大林組 技術プロポーザル、PR活動 …… 川瀬俊二氏（苗S48）



1993年早稲田大学商学部卒業。1997年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1998年早稲田大学大学院修士課程（建築学）修了。現在、東武タワースカイツリー営業企画部長。主な担当作品に虎門琴平タワー、ミッドランドスクエア、さいたまスーパーアリーナなど。

東京スカイツリー① 現場ルポ、今村義人氏インタビュー

出来上がる過程が新鮮

5月31日、現在建設が進む東京スカイツリーへ行ってきました。建設現場の近くにあるインフォプラザを訪ね、プロジェクトを担当されている東武タワースカイツリー株式会社の営業企画部今村義人氏にお話を伺いました。

●インタビュアー（学生広報委員） 西野安香（苗H21・修士2年）／山本麻莉（苗H21・修士2年）／諏訪俊樹（苗H22・修士1年）／川村聡宏（苗H22・修士1年）

「この場所に決まった理由を教えてください。」

新タワーの建設場所としていくつもの土地が候補に挙がっていました。この敷地が選ばれた主な理由は東京の代表的な観光地である浅草と隣接しており、相乗効果が期待できること、地元の後押しなどのアピールが評価されたことなどです。

東京スカイツリーの建築にあたり、地元の反対などはなかった。



構造合理性のなかにオリジナリティを

「学生時代を振り返って、何が印象に残っていますか？」

亀井：入学当初、建築学科というのは、学術的に建築を学ぶところだと思っていたのですが、ほとんど泊まり込み状態で先輩の手伝いをするのにカルチャーショックを受けました。そういう早稲田の伝統的な徒弟制度が印象に残っています。その当時は苦しいこともありましたが、いろいろな人と深いつながりができました。今でもそのときの人々とはお付き合いがあります。

吉野：大学院時代、池原研究室では設計の仕事もやっていたので、研究室の中が常にビリビリしていました。だから、58号館の製図室に入り浸って、みんなでコン



東京スカイツリーの形について、模型を使って説明する吉野氏。タワーの平面は一番下が三角形で、上に向かって徐々に円形へ変換し、高さ約300mで正円になる。そのため、見る方向によってタワーに「ヨリ」や「むくり」の形が生まれる。

べをしていたことをよく覚えています。空いた時間は設計事務所でもアルバイトをしていました。日建設計で

亀井さんの手伝いをしたこともあります。日建設計で亀井：そうでした。当時、東京ドームの設計をしていて、吉野さんに模型をつくってもらいました。

吉野：みんな徹夜で模型をつくっていたのですが、私は徹夜にたえられなくなって、家に帰ったんです。そのうしたら、夜中の2時くらいに亀井さんから電話がかかってきて、「模型に使っていたビスがないんだけど、場所を知らない？」と。夜中の2時ですよ。これがまさに早稲田の伝統なんだと思いました。

「学生のころから、今回のタワーのような都市のシンボルを設計してみたいと思っていましたか？」

亀井：特に学生時代のように思ったことはありませんでした。日建設計に入ってから、そういった建築を設計することが多くなっていきました。

吉野：私もそう思ったことはなかったですね。当時、早稲田の学生は水平方向に伸びた建築をつくる人が多く、私も広い敷地に平面的に広がる美術館を設計するような計画が好きでした。日建設計に入ってから、狭い敷地に垂直方向に伸びる建物を設計することが多くなりました。ちょうど、私が入社したときに、亀井さんが中国の大連タワーを設計していました。

東京スカイツリーの設計者はどうやって決まったのですか？

亀井：私は大連タワーの設計経験があったことなどから、全体統括の担当者になりました。デザインを決めるときに社内コンペを行いました。100案くらいの応募があり、その中で選ばれた数案に吉野さんのものもありました。実施案とは異なる案ですが……。

超高層タワーの設計には、独特のノウハウがあるのですか？

亀井：やはり構造が決定する要素が大きいです。この

です。デザインとしているものも描くことは可能ですが、結局は構造の合理性がないと、このような超高層タワーは実現には至らない。複雑なものではなく、よりシンプルなものになっていきます。その中で、ほかとは違うオリジナリティをどうデザインするか、ということが課題になります。

東京タワーの時代と比べて、違っていますか？

亀井：東京タワーはL型のアンクル材を使って、リベットで留めてつくられています。昭和30年代、鉄は貴重品だったので、そういうものを使うしかなかった。今回のスカイツリーでは肉厚のある丸パイプを使っています。タワーの足元の丸パイプの直径が2m30cm。肉厚が10cm。東京タワーの時代にはこんなに厚いものは使えなかったと思います。平板を曲げて溶接する造船の技術でつくっています。そのパイプを垂直方向に継いでいくために、現場で溶接しています。10cmの厚さの溶接は難しく、厳しい品質管理が要求されます。できあがったものはシンプルに見えますが、仕口が数千種類もあり、実は複雑なものです。

コンピュータの進化によって、複雑なことができるようになったのでしょうか？

亀井：そうですね。設計や部材の製作には非常に寄与しています。ただ、最終的にはそのチェックは一つ一つ全部、人がやるわけですね。チェックは機械ではできない。だから、構造の担当者はずっと苦労しています。現在の建築の世界では、図面を描くまではCADでやりますが、そこから実際のものにするのは、コンピュータの力に頼る部分もありますが、最後は人です。そこが建築の面白さだと思います。その苦労と面白さを今の学生にもっと知ってほしい。最近では、学生のポートフォリオを見ると、CGだけがうまい人が多い。それがもたらすところをもっと体験しないと、本当の建築はわからないと思います。

東京スカイツリーの次に挑戦してみたいことはありますか？

亀井：これからもっと複合的な空間づくりに取り組んでいきたいと考えています。パブリックスペースを見ると、例えば、駅ビルはピカピカだけれども、プラウトフォームは極端に貧しい空間になっている。そのよ

建築はわからないと思います。

「早稲田の学生時代はどうでしたか？」

教授の佐藤滋先生、西谷章先生、長谷見雄二先生が私の同期です。私の3年先輩に森義純さんがいて、彼の卒業設計などを手伝いました。われわれの代は村野賢が2人いたのですが、その1人の古市徹雄さんとは今でも親交が深いんです。彼の卒業設計はものすごく分厚かったのをよく覚えています。その後、枚数制限ができたので、みんな泊まりがけで20人くらいが雑魚寝しながらロットリングで図面を描いていた時代です。今は、ロットリングも使わなくなりましたよね。

大林組に入社されてからはどんな仕事を担当されましたか？

ゼネコンは事務所ビルが多いので、事務所と商業施設の設計が中心でした。その中でも一番大きなものは電通本社ビルです。ジャン・ヌーベルとジョン・ジャーディがパートナーだったので、エキサイティングでしたが、非常に苦労もしました。建築評論家の馬場瑠璃子さん（苗S32）に「世紀の mismatch にならないように」と忠告されたほどです。大変やりがいのある稀有な仕事だったので、その内容を早稲田大学マイスタースクールで講義しました。大林組が電通本社ビルの建設に設計施工でトータルに取り組んだプロセスを大学院生や社会人に詳説して、その内容を本にまとめた。（電通本社ビル 全行程の記録）2005年／建築資料研究社

今回の東京スカイツリーではどういう仕事をしていますか？

今私は、プロポーザル部門の部長をしています。この部門では、プロポーザルで当選した設計事務所の案に対し、施工会社が入札する際に提出する技術提案書をつくっています。東京スカイツリーでは、大林組が施工の受注を勝ち取るための技術提案書の作成や工事取得までの営業支援を行いました。また、現在は大林組の広報部門と連携し、東京スカイツリーの社内外のPR活動を行っています。例えば、スカイツリーは日建設計が設計、大林組が施工、東武鉄道が建築主というように、建設現場に大きな3社のロゴマークを掲示するというようなこともやりました。スカイツ

うな場所がよくありますよね。そういったパブリックスペースをデザインする仕事ができればと思っています。経済が行き詰まって、建築の需要が減っている今こそ、一般市民の共感が得られる、社会が本当に必要としているような新しい仕事をつくっていかねばならない。そういうところで社会的役割を担ってほしいと考えています。

吉野：今はインテリアの設計をしたいと思っています。タワーや高層建築は構造評定、耐火評定、避難安全検査など、大変なことが多いんです。それに比べると、インテリアは、かなり自由がある。新しいものも古いものも使えるので、楽しいと感じています。タワーが終わったら、しばらく超高層から離れて、リニューアールや内装系の仕事をしたいと思っています。

シンボリックな建築はどうでしょうか？

吉野：うーん……。今は大規模なものよりも、シンボリックなことも設計したいですね（笑）。

みなを元気にする起爆剤に

早稲田の学生時代はどうでしたか？

教授の佐藤滋先生、西谷章先生、長谷見雄二先生が私の同期です。私の3年先輩に森義純さんがいて、彼の卒業設計などを手伝いました。われわれの代は村野賢が2人いたのですが、その1人の古市徹雄さんとは今でも親交が深いんです。彼の卒業設計はものすごく分厚かったのをよく覚えています。その後、枚数制限ができたので、みんな泊まりがけで20人くらいが雑魚寝しながらロットリングで図面を描いていた時代です。今は、ロットリングも使わなくなりましたよね。

大林組に入社されてからはどんな仕事を担当されましたか？

ゼネコンは事務所ビルが多いので、事務所と商業施設の設計が中心でした。その中でも一番大きなものは電通本社ビルです。ジャン・ヌーベルとジョン・ジャーディがパートナーだったので、エキサイティングでしたが、非常に苦労もしました。建築評論家の馬場瑠璃子さん（苗S32）に「世紀の mismatch にならないように」と忠告されたほどです。大変やりがいのある稀有な仕事だったので、その内容を早稲田大学マイスタースクールで講義しました。大林組が電通本社ビルの建設に設計施工でトータルに取り組んだプロセスを大学院生や社会人に詳説して、その内容を本にまとめた。（電通本社ビル 全行程の記録）2005年／建築資料研究社

今回の東京スカイツリーではどういう仕事をしていますか？

今私は、プロポーザル部門の部長をしています。この部門では、プロポーザルで当選した設計事務所の案に対し、施工会社が入札する際に提出する技術提案書をつくっています。東京スカイツリーでは、大林組が施工の受注を勝ち取るための技術提案書の作成や工事取得までの営業支援を行いました。また、現在は大林組の広報部門と連携し、東京スカイツリーの社内外のPR活動を行っています。例えば、スカイツリーは日建設計が設計、大林組が施工、東武鉄道が建築主というように、建設現場に大きな3社のロゴマークを掲示するというようなこともやりました。スカイツ

リーのパンフレットを作成したり、ノベルティなども考えています。私が部員によく話すのは、「東京の新しいシンボルをつくるような貴重な経験はめったにないのだから、仕事として取り組むだけではなく、もっと楽しい有意義な提案をしよう」ということです。部員がこれに賛同してくれて、いろいろなアイデアが出てきました。その一つが、A4の紙に印刷された切り取り線をはさみで切って、のりしろを貼り合わせるだけできる、1/2000の紙模型です。この模型は三角形から円形へ変わっていく細かい変化も表現しています。また、スカイツリーの高さ150mから見た景色を撮った写真をつなげて、360度のパノラマビューを制作しました。墨田区の押上にありますから、都心が小さく見えるんですね。今まであまり見たことのない風景が一面に広がります。

東京スカイツリーは建設途中なのに、さまざまな人々の注目を集めています。

建設現場が「新建築」の表紙になるくらい建築界でも注目されていますし、完成したら大変だと思います。インパクトのあるものができますから、足元に広がる街区もふくめて活性化していくのではないかと思います。すでに地元の人気がスポットになって、ブームになっていますから、これからもっと社内外にPRして、みんなを元気にする起爆剤にしていきたいと思っています。

先輩から後輩へのメッセージを。

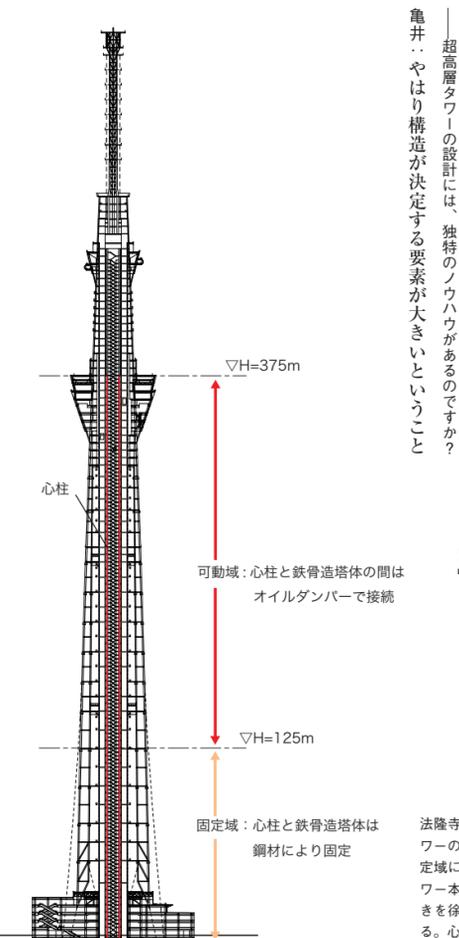
最近では、早稲田の学生の元気がないように感じます。才能ある人がほかの大学から出てくるような印象もあります。早稲田の学生はベースになる力を持っていると思うので、もっと既成概念にとらわれずに建築をつくらせてほしいですね。例えば、環境や設備を重視したグリーンアーキテクチャーのようなものや、もっと設備コンシヤスな、それでいてデザインの優れた建築が生まれてきてほしいのではないかと思います。今の時代に合った建築を自由に発想して、もう一度、早稲田建築ここにあり、というところを見せてほしいなと思います。



紙でつくった東京スカイツリーの1/2000模型について説明する川瀬氏。

東京スカイツリー計画概要

名称：東京スカイツリー
 所在地：東京都墨田区押上1丁目
 高さ：634m
 主要用途：電波塔、放送施設、展望施設
 構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
 基礎工法：場所打ち、地中連続壁杭
 着工：2008年7月
 竣工予定：2011年12月
 開業予定：2012年春
 建築主：東武タワースカイツリー（株）
 設計・監理者：日建設計
 施工者：大林組



法隆寺五重塔の心柱にヒントを得た制振システム。タワーの中心部に心柱を設け、地面から125mまでを固定域に、そこから展望台までを可動域としている。タワー本体と心柱の固有周期が異なるため、お互いの動きを徐々に吸収し合い、地震や風からの揺れを低減する。心柱内部には避難階段が設置されている。

2010年度 春の大会報告

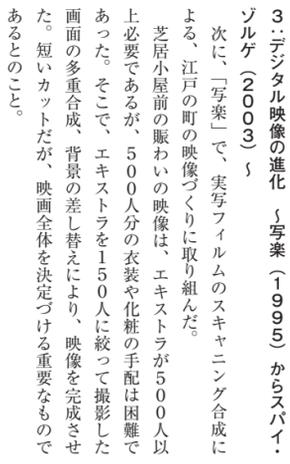
肌寒い曇り空の5月28日(金)、西早稲田キャンパスにおいて、建築学科創設100周年記念の稲門建築会春の大会が盛大に開催された。

2010年度通常総会・懇親会

まず、57号館2階201教室で開かれた通常総会では、村松映一会長(苗S38)の挨拶で、100周年事業の成功に向けた支援が呼びかけられ、2009年度活動および取支決算報告、2010年度活動計画案および予算案、並びに2010年度役員案の説明があり、いずれも異議なく了承された。

通常総会終了後引き続き、特別功労賞受賞者の紹介および表彰状・記念品の授与があった。また、学園の近況では、女性入学者が非常に増えたとの報告があった。

この後、篠田正浩監督の特別講演をはさんで、会場を55号館N棟1階第1会議室に移し、恒例の懇親会が賑やかに開かれた。参加者が酒を酌み交わし料理をつまみ中で、特別功労賞受賞者の挨拶や100周年事業への協力依頼、合同クラス会へのお誘いなどがあり、会は和やかな雰囲気の中で進み、最後に校歌を力強く斉唱し、お開きとなった。



映画監督 篠田正浩氏特別講演

デジタル映像で発見した、私の空間体験

1...なぜ映画監督になったか

来年80歳を迎える篠田監督は、1953年に第一文学部演劇科を卒業後、柳松竹に入社、1960年、映画監督となった。ご本人の弁によると、子どもの頃は「対人恐怖症」で、「人前に出ないで悪いことができる」から、映画監督になったとのこと。

2:デジタル映像との出会い

〜舞姫(1987)〜

監督がデジタル映像を映画づくりに活用するきっかけ

2010年3月31日現在		2009年3月31日現在	
負債・積立金の部	金額	金額	
科目	金額	金額	
未払金	107,020	107,020	
前受金	4,550,000	4,550,000	
事務費準備金	585,000	585,000	
積立金	26,000,000	26,000,000	
特別積立金	6,203,858	6,203,858	
(合同クラス運営基金積立金	5,245,803円)		
(60周年準備積立金	958,055円)		
決算額	1,922,904	1,922,904	
合計	39,448,782	39,448,782	

収支計算書	年予算	実績金額	予算実績差額
＜収入の部＞			
勘定科目			
【会費及び人会金】			
年会費(正)	12,500,000	11,735,000	△765,000
年会費(協)	0	10,000	10,000
学生会費	2,100,000	2,260,000	160,000
人会費(協)	0	10,000	10,000
【維持費】	3,800,000	3,435,000	△365,000
維持費			
【寄付金】	0	5,000	5,000
寄付金			
【活動に伴う収入】	1,100,000	1,043,700	△56,300
広告収入	0	0	0
名簿収入	720,000	1,304,500	584,500
その他活動収入			
【資産から生じる収入】	70,000	136,797	66,797
受取利息			
【その他収入】	0	13,448	13,448
雑収入			
【積立金取崩し】	2,000,000	2,000,000	0
合同クラス運営基金			
【前年度繰越金】	1,844,133	1,844,133	0
前年度繰越金			
収入合計	24,134,133	23,797,578	△336,555
単位:円			
＜支出の部＞			
勘定科目	年予算	実績金額	予算実績差額
【会費】	990,000	1,285,834	△295,834
【会員】	370,000	342,623	27,377
名簿整備費	400,000	303,653	96,347
オランダ名簿発行費	0	0	0
新名簿運用費	10,000	0	10,000
活	210,000	639,558	△429,558
OBによる仕事紹介			
【広報】	6,160,000	5,981,780	178,220
早稲田建築ニュース発行費	4,210,000	4,184,556	25,444
イヤークック発行費	1,850,000	1,750,919	99,081
概要書発行費	50,000	2,205	47,795
ホームページ・雑誌・運営費	50,000	44,100	5,900
【事業】	820,000	120,843	699,157
見学会・セミナー開催費	200,000	63,200	136,800
図面ライブラリー	600,000	57,643	542,357
活動支援費	20,000	0	20,000
【総務】	2,660,000	2,472,565	187,435
総会議費	500,000	440,388	59,612
補助金:支部	950,000	950,000	0
学生	900,000	899,940	60
稲門建築会費	30,000	27,878	2,122
顕彰制度運用費	100,000	47,134	52,866
日本建築学会選挙	100,000	98,695	1,305
組織活性化対策費	50,000	8,530	41,470
30,000	0	30,000	
【建築学科創設100周年記念事業】	2,000,000	2,000,000	0
記念事業特別会計			
活動費計	12,630,000	11,861,022	768,978
会議費	140,000	124,678	15,322
事務費	7,700,000	7,494,921	205,079
P環境整備費	80,000	135,802	△55,802
用品費	70,000	61,301	8,699
通信費	140,000	121,126	18,874
交通費	1,100,000	1,035,500	64,500
印刷費	530,000	631,425	△101,425
支払手数料	360,000	341,841	18,159
慶弔慰問費	40,000	23,754	16,246
雑費	40,000	43,304	△3,304
運営費計	10,200,000	10,013,652	186,348
予備費計	1,304,133	0	1,304,133
支出合計	24,134,133	21,874,674	2,259,459
決算収支差額		1,922,904	
決算処分案		1,922,904円	
決算収支差額		305,000円	
処分		105,000円)	
(事務費準備金		200,000円)	
(60周年準備積立金		1,617,904円	
次年度繰越金			

は、旧ソビエト連邦の映画監督、セルゲイ・エイゼンシュテイン(1898~1948)の「モンタージュ理論」を実践してみたいと思ったから、とのこと。エイゼンシュテインは、ある時、漢字の存在を知る。たとえば「門」と「耳」という、いずれも象形を起源とする漢字を合成すると、「聞」という新たな意味の漢字となる。表音文字の世界で生きる彼は衝撃を受け、後に、画像の合成により新たな意味を創出する「モンタージュ理論」を確立する。

第13回稲門建築会特別功労賞受賞者紹介

【表彰理由(より要約)】

●内藤多四郎氏(苗S31 院S33)

NSビル(1977)、中国世界貿易センター(北京1985)など、多くの建築プロジェクトにおけるコストプランニングを手掛ける傍ら、建築積算基準の改定に従事し、(社)日本建築積算協会副会長就任、建築コスト管理士の資格制度設立など、建築コストに貢献し、多方面で多大な貢献をした。また、建築学科非常勤講師として「建築経済」を18年間にわたり担当し、数量積算やコストプランニングについての教育を行った。

第7回OBによる仕事紹介のお知らせ

昨年引き続き今年の学生特に建築業界を志す学生にとっては、厳しい就職活動が予想されます。稲門建築会OB諸氏と学生の「仕事紹介」を通じて、稲門建築会OBとして企画する、この「OBによる仕事紹介」は、就職を考えている学生諸君が、各企業の情報を知り、様々な企業の先輩諸氏と本音で語り合える貴重な機会です。学生は皆さん、OBの皆さん、年の瀬の土曜日の午後、仕事について本音で語り合おうではありませんか。

- 開催日時: 2010年12月11日(土) 13:00~19:00
- 場所: 早稲田大学理工学術院57号館および55号館
- プログラム:
 - 1部(13:00~14:00) 「業種別仕事紹介」 大教室での業種別説明会。各業種を代表するOBによるプレゼンテーションと質疑応答で、建築関連業界全体を俯瞰。
 - 2部(14:00~15:00) 「企業別仕事紹介」 40社以上の参加企業ブースを学生が自由に回り、各企業のOBに個別情報収集。
 - 3部(15:00~16:00) 「OBと学生の懇親会」 立食パーティーで学生とOBが本音のコミュニケーション。
- 申込先: 稲門建築会事務局 (amunji@poppy.ac.nipj)
- 申込期限: 2010年9月17日(金)
- 参加費用: 2万円(ブース設置及び懇親会費として)
- 鈴木康史 理事・会員委員長(苗S59)

第11回稲門建築ライブラリー公開懇談会「松井源吾」のお知らせ

早稲田建築100周年を記念し、理工学部校舎の構造設計に携わった松井源吾先生の図面集、ライブラリーを公開し、懇談会を開催します。

先生は研究と実務を両輪に、日本における建築構造設計を確立されました。懇談会では、松井源吾先生の多岐にわたるプロジェクトと研究における業績に触れながら、「作家として」「学者として」「教育者として」の松井源吾先生について、活動と共にした方々と構造設計の本質を語っていただきます。と思います。

米山勇氏(苗S63 院H2 博)

日本近代建築史の研究者として第一線で活躍している。現在、江戸東京博物館に勤務し、日本

支出の部	年予算	実績金額	予算実績差額
勘定科目			
【会費】	990,000	1,285,834	△295,834
【会員】	370,000	342,623	27,377
名簿整備費	400,000	303,653	96,347
オランダ名簿発行費	0	0	0
新名簿運用費	10,000	0	10,000
活	210,000	639,558	△429,558
OBによる仕事紹介			
【広報】	6,160,000	5,981,780	178,220
早稲田建築ニュース発行費	4,210,000	4,184,556	25,444
イヤークック発行費	1,850,000	1,750,919	99,081
概要書発行費	50,000	2,205	47,795
ホームページ・雑誌・運営費	50,000	44,100	5,900
【事業】	820,000	120,843	699,157
見学会・セミナー開催費	200,000	63,200	136,800
図面ライブラリー	600,000	57,643	542,357
活動支援費	20,000	0	20,000
【総務】	2,660,000	2,472,565	187,435
総会議費	500,000	440,388	59,612
補助金:支部	950,000	950,000	0
学生	900,000	899,940	60
稲門建築会費	30,000	27,878	2,122
顕彰制度運用費	100,000	47,134	52,866
日本建築学会選挙	100,000	98,695	1,305
組織活性化対策費	50,000	8,530	41,470
30,000	0	30,000	
【建築学科創設100周年記念事業】	2,000,000	2,000,000	0
記念事業特別会計			
活動費計	12,630,000	11,861,022	768,978
会議費	140,000	124,678	15,322
事務費	7,700,000	7,494,921	205,079
P環境整備費	80,000	135,802	△55,802
用品費	70,000	61,301	8,699
通信費	140,000	121,126	18,874
交通費	1,100,000	1,035,500	64,500
印刷費	530,000	631,425	△101,425
支払手数料	360,000	341,841	18,159
慶弔慰問費	40,000	23,754	16,246
雑費	40,000	43,304	△3,304
運営費計	10,200,000	10,013,652	186,348
予備費計	1,304,133	0	1,304,133
支出合計	24,134,133	21,874,674	2,259,459
決算収支差額		1,922,904	
決算処分案		1,922,904円	
決算収支差額		305,000円	
処分		105,000円)	
(事務費準備金		200,000円)	
(60周年準備積立金		1,617,904円	
次年度繰越金			



左より内藤氏、粟生氏、米山氏

数少ない建築学専攻の博物館職員として調査研究や企画展示に積極的に活動する一方、多数の著作、講演、テレビ出演などを通じて、建築の楽しさを広く一般の人々に啓蒙してきた。そのユニークな視点と多方面へのメッセージ性達力などが高く評価され、社会的な認知度も高い。稲門建築会の活動の幅を広めることに大きく寄与する人材である。

第7回OBによる仕事紹介のお知らせ

昨年引き続き今年の学生特に建築業界を志す学生にとっては、厳しい就職活動が予想されます。稲門建築会OB諸氏と学生の「仕事紹介」を通じて、稲門建築会OBとして企画する、この「OBによる仕事紹介」は、就職を考えている学生諸君が、各企業の情報を知り、様々な企業の先輩諸氏と本音で語り合える貴重な機会です。学生は皆さん、OBの皆さん、年の瀬の土曜日の午後、仕事について本音で語り合おうではありませんか。

- 開催日時: 2010年12月11日(土) 13:00~19:00
- 場所: 早稲田大学理工学術院57号館および55号館
- プログラム:
 - 1部(13:00~14:00) 「業種別仕事紹介」 大教室での業種別説明会。各業種を代表するOBによるプレゼンテーションと質疑応答で、建築関連業界全体を俯瞰。
 - 2部(14:00~15:00) 「企業別仕事紹介」 40社以上の参加企業ブースを学生が自由に回り、各企業のOBに個別情報収集。
 - 3部(15:00~16:00) 「OBと学生の懇親会」 立食パーティーで学生とOBが本音のコミュニケーション。
- 申込先: 稲門建築会事務局 (amunji@poppy.ac.nipj)
- 申込期限: 2010年9月17日(金)
- 参加費用: 2万円(ブース設置及び懇親会費として)
- 鈴木康史 理事・会員委員長(苗S59)

第11回稲門建築ライブラリー公開懇談会「松井源吾」のお知らせ

早稲田建築100周年を記念し、理工学部校舎の構造設計に携わった松井源吾先生の図面集、ライブラリーを公開し、懇談会を開催します。

先生は研究と実務を両輪に、日本における建築構造設計を確立されました。懇談会では、松井源吾先生の多岐にわたるプロジェクトと研究における業績に触れながら、「作家として」「学者として」「教育者として」の松井源吾先生について、活動と共にした方々と構造設計の本質を語っていただきます。と思います。

米山勇氏(苗S63 院H2 博)

日本近代建築史の研究者として第一線で活躍している。現在、江戸東京博物館に勤務し、日本

支出の部	年予算	実績金額	予算実績差額
勘定科目			
【会費】	990,000	1,285,834	△295,834
【会員】	370,000	342,623	27,377
名簿整備費	400,000	303,653	96,347
オランダ名簿発行費	0	0	0
新名簿運用費	10,000	0	10,000
活	210,000	639,558	△429,558
OBによる仕事紹介			
【広報】	6,160,000	5,981,780	178,220
早稲田建築ニュース発行費	4,210,000	4,184,556	25,444
イヤークック発行費	1,850,000	1,750,919	99,081
概要書発行費	50,000	2,205	47,795
ホームページ・雑誌・運営費	50,000	44,100	5,900
【事業】	820,000	120,843	699,157
見学会・セミナー開催費	200,000	63,200	136,800
図面ライブラリー	600,000	57,643	542,357
活動支援費	20,000	0	20,000
【総務】	2,660,000	2,472,565	187,435
総会議費	500,000	440,388	59,612
補助金:支部	950,000	950,000	0
学生	900,000	899,940	60
稲門建築会費	30,000	27,878	2,122
顕彰制度運用費	100,000	47,134	52,866
日本建築学会選挙	100,000	98,695	1,305
組織活性化対策費	50,000	8,530	41,470
30,000	0	30,000	
【建築学科創設100周年記念事業】	2,000,000	2,000,000	0
記念事業特別会計			
活動費計	12,630,000	11,861,022	768,978
会議費	140,000	124,678	15,322
事務費	7,700,000	7,494,921	205,079
P環境整備費	80,000	135,802	△55,802
用品費	70,000	61,301	8,699
通信費	140,000	121,126	18,874
交通費	1,100,000	1,035,500	64,500
印刷費	530,000	631,425	△101,425
支払手数料	360,000	341,841	18,159
慶弔慰問費			